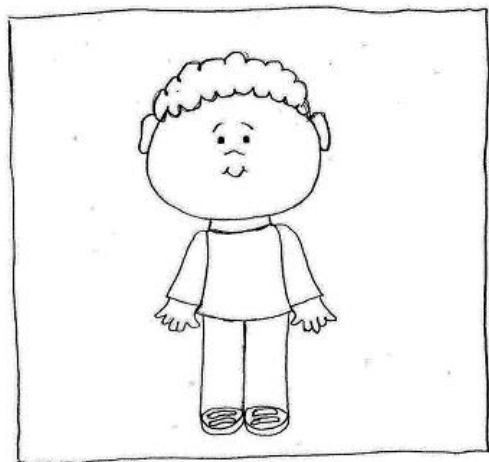


子育ての四角形

～子どもに身に着けさせたい人生の基本～



: もくじ :

- P 2 オープニングストーリー「もうやだ、こんな人生」
- P 4 初めに
- P 5 1、夫婦～四角形を構成する線
- P 1 0 2、基本的従順
- P 1 5 3、基本的信頼
- P 1 8 4、神への畏れ
- P 2 3 5、生きる力
- P 2 6 6、四角形の中に描かれるもの

★オープニングストーリー：「もうやだ、こんな人生」

上司には小言を言われ、部下にはなめられ、残業代もつかずに疲れ切って帰ってきたら午後10時。風呂に入ろうとしたら、25歳になる息子（独身）が既に入っていて、のんびり鼻歌を歌っている。

どうしてそんなに呑気なのかと呆れてしまう。専門学校を出て就職したくせに、最初の職場は二ヶ月と持たず、その後はバイトしては辞めるの繰り返し。しかも、どの場合も半年以上のインターバルを経ている。先月までは、何とかレンタルビデオ屋での週三のバイトを続けていたものの、店長に一度怒られただけで、ビビって辞めてしまった。一体、これからの人生をどうするつもりなのか。税金も年金もろくに納めておらず、健康保険だって親の扶養から抜け出せずにいる。

ため息をつきながらソファに身を投げ出すと、来月には21歳になる大学生の娘が部屋から出てきて、冷蔵庫からビールを取り出ししている。おい、それは俺のだ、と言いたいが、言葉が詰まって出て来ない。

「ねえ、お父さん、あたし、パスモのお金が足りなくて一、千円貸してほしいんだけど」

目も合わせずに、グラスにビールを注ぎながら娘が呟くように言う。しょうがなく財布から千円札を取り出して渡してやる。娘は無言で掴まむように受け取り、部屋に戻って行く。貸して、なんて口では言っているが、戻ってきたためしがない。大学の学費も、全部出してやっていると言うのに、感謝の心がまるでない。

またため息をついていると、タオルで髪をこすりながら、息子が風呂から出てきた。

「職探しはどうだ？」

さりげなく声をかけてみるが、まあまあ、という返事が返ってきただけだ。なにがまあまあだ、と言いたかったが、言葉を飲み込む。彼にとって

のまあまあ、とは、何もしていないと同じ意味だと、最近気付いた。

エネルギーをほぼ使い果たして帰ってきたというのに、子ども達の声
聞くだけで、僅かに残っていた力まで吸い取られるような気がする。

重い体を引きずりながら風呂に入る。歯を磨いて寝室に行くと、本を
読んでいた妻はこちらをちらりと見ただけで、また物語の世界に戻って行く。
俺は思わずぼやく。

「どうにかならんかな、うちの子ども達は。いい年なのに、幼稚園児より
もたちが悪い」

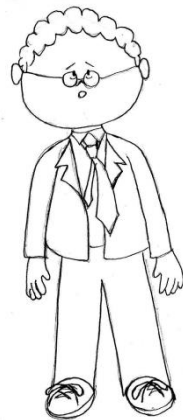
妻はつんとした顔で答える。

「全く、誰のせいでしょうね」

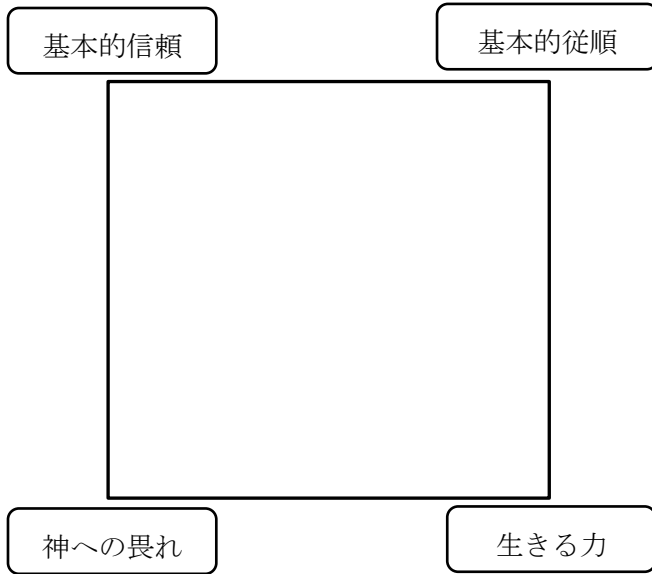
俺はあえて何の意見も述べずに布団に潜り込み、胸の内をつぶやく。

——もうやだ、こんな人生。

この冊子が、こんな最悪のストーリーを回避する助けとなりますように！



子育ての四角形とは、子どもが身に着けるべき四つの要素のことです。



この四角形を、親は

- ・自分の模範によって
- ・祈りによって
- ・言葉によって
- ・共に時間を過ごすことによって
- ・しつけることによって
- ・訓練することによって
- ・慰め、励ますことによって

子どもに教えていくのです。

1、夫婦～四角形を構成する線～

まず、四つの角をつなぎ合わせる線について考えてみましょう。この線は夫婦を表します。子育てに必要な要素を結び合わせるもの、さらに言うならば、子育てよりも大事なもの、それが夫婦の関係です。夫婦が愛し合い、仕え合い、同じビジョンを共有し、一致して子育てに取り組む時、子どもにこの四つの要素を身に着けさせることが容易になります。

(夫婦関係に関しては「夫の愛」「妻の従順」という冊子がありますので、そちらを参考にしてください。今回は子育てと夫婦関係の基本について簡単に触れます)

御言葉

・エフェソ5：22～32

妻たちよ、主に仕えるように、自分の夫に仕えなさい。キリストが教会の頭であり、自らその体の救い主であるように、夫は妻の頭だからです。また、教会がキリストに仕えるように、妻もすべての面で夫に仕えるべきです。夫たちよ、キリストが教会を愛し、教会のために御自分をお与えになったように、妻を愛しなさい。キリストがそうなさったのは、言葉を伴う水の洗いによって、教会を清めて聖なるものとし、しみやしわやそのたぐいのものは何一つない、聖なる、汚れのない、栄光に輝く教会を御自分の前に立たせるためでした。そのように夫も、自分の体のように妻を愛さなくてはなりません。妻を愛する人は、自分自身を愛しているのです。わが身を憎んだ者は一人もおらず、かえって、キリストが教会になさったように、わが身を養い、いたわるものです。

・コリント I 7 : 3 ~ 4

夫は妻に、その務めを果たし妻も夫にその務めを果たしなさい。妻は自分の体を意のままにする権利を持たず、夫がそれを持っています。夫も自分の体を意のままにする権利を持たず、妻がそれを持っているのです。

・コロサイ 3 : 19

夫たちよ、妻を愛しなさい。つらく当たってはならない。

・コロサイ 3 : 18

妻たちよ、主を信じる者にふさわしく、夫に仕えなさい。

・マラキ 2 : 15 ~ 16

主は、霊と肉を持つひとつのものを造られたではないか。そのひとつのものが求めるのは、神の民の子孫ではないか。あなたたちは、自分の霊に気をつけるがよい。あなたの若いときの妻を裏切ってはならない。わたしは離婚を憎むと、イスラエルの神、主は言われる。離婚する人は、不法でその上着を覆っていると、万軍の主は言われる。

ツール

①幸福を感じること

子どもが生まれると、夫婦はそれまでは経験したことがない緊張感や、怒りや失望を体験します。そして、二人だけでは得ることができない、また別の種類の幸福を体験します。神は、人が家族として過ごす事を喜びとして感じるように創造してくださっているのです。このような幸福感は、夫婦にとって強力な武器となります。

②一致すること

子育ての現場において夫婦が一致していないならば、子どもは場合に応じて、自分の都合がいい方を選んでします。しかし、夫婦の間で、子育てに関する価値観が異なるのは当然の事です。大枠では一致していても、細かい点においては違いがあるでしょう。夫婦の一致とは、全く同じ価値観を持つことではなく、御言葉に従い、お互いを受け入れ合うことによって成し遂げられます。夫が妻を愛し、妻の言葉に耳を傾け、妻が夫を敬い、夫の言葉に耳を傾ける時、同じ価値観を持つ以上の一致が生まれるでしょう。

以下のチェックポイントを用いて、健全な自己批判をしてみましょう。そして、夫婦で話し合ってみましょう。一致する事について、夫婦で向き合って話ができない場合、夫婦カウンセリングなどの措置を取ることをお勧めします。

- ・何が何でも子どもをキリストのもとに導きたい、と思っていますか？
- ・子育てに関して、へりくだって伴侶の言葉に耳を傾けていますか？ それとも、言下に否定していますか？
- ・伴侶に対する御言葉に従わず、御言葉に反する子育てをしているなら、神はあなたに罰を与える事を知っていますか？
- ・共に祈っていますか？ 子どもたちが主の御心に適った人生を歩むことを願い、夫婦で祈りを合わせていますか？

- ・子どもが伴侶に対して反抗している場合、すかさず戒めていますか？ それとも、見て見ぬふりをしていますか？
- ・子どもの問題を伴侶に押し付けたり、伴侶のせいにしていませんか？ 夫婦の問題として、共に取り組んでいますか？
- ・子どもをしつける場合、両親の姿勢は一致していますか？ 世の中で出回っている「叱る時は、夫婦の内、どちらかは子どもの味方になってやる」というような嘘に騙されてはいませんか？
- ・どのような子ども（大人に）に育てていくのか、ビジョンを持っていますか？ 夫婦で話し合った事がありますか？
- ・子育てにおける喜びは何ですか？ その喜びを共有できていますか？
(夫婦が感じる喜びが全く同じである必要はありません)

③一致ができなくても芯を通すこと

夫婦が感じているストレスの多くは、お互いが違うことではなく、一致を求めようとし、それがうまくいかないために失望したり、傷ついたりすることかもしれません。しかし、一致していてもいなくても、子ども達はどんどん大きくなっていきます。そんな時に必要なのは、一致できるまで待つことではなく、一致できなくとも芯を通す、という事です。その芯とは、単純な信仰です。「何があっても、私は主に従いたいです。子どもたちを主の元に導きたいです」と告白し、祈り続けることです。一致できない事に失望したとしても、「私にはできなくても、主にはできる」と、信仰をもって子育てを続けましょう。機能不全な家庭であった

り、伴侶のどちらかが未信者であったりしても、主を恐れ敬う親の祈りに、主は必ず答えてくださる方です。

④神の恵みによって

夫婦関係がうまくいかなくなると、「ああ、私の子どもは駄目になってしまう！」と落ち込んでしまう人もいるでしょう。しかし、子どもが神の子として成長するのは、最終的には親の行いではなく、神の恵みであることを心に留めましょう。失望することなく、親としての責任を果たし続け、子どもを神にゆだね続けましょう。多くの不健全な家庭に育った子どもたちが、神の恵みによって主に従う者として成長している現実を、私達は見てきたはずです。

2、基本的従順

御言葉

- 出エジプト記 20 : 12

あなたの父母を敬え。そうすればあなたは、あなたの神、主が与えられる土地に長く生きることができる。

- エフェソ 6 : 1～3

子供たち、主に結ばれている者として両親に従いなさい。それは正しいことです。「父と母を敬いなさい。」これは約束を伴う最初の掟です。「そうすれば、あなたは幸福になり、地上で長く生きることができる」という約束です。

- 箴言 30 : 17

父を嘲笑い、母への従順を侮る者の目は、谷の烏がえぐり出し、鷲の雛がついばむ。

子どもは親に従いなさいという戒めは、旧約聖書でも新約聖書でも一貫しているものです。その戒めに逆らうなら、子どもは律法に記されている通りの呪いを受けます。ですから親は、子どもが親に従うように教え、しつけ、訓練しなければなりません。親に従う事を学んだ子どもは、神の愛と裁き、そして悔い改めについて、より深く理解できるようになります。基本的従順を身に着けさせる究極の目的は、子どもが神に従うことです。

ツール

①すべての面で従順であるように教える

親に従うことは何よりも大切な戒めであると教え続けましょう。親に逆らうなら、それは神の言葉に逆らうのだと教えましょう。親に逆らうと不幸になると教えましょう。

②懲らしめの鞭を用いる

・箴言 13 : 24

鞭を控えるものは自分の子を憎む者。子を愛する人は熱心に諭しを与える。

世の中の教育に関する教えがどうであろうと、聖書は鞭を用いて、子どもを矯正するように教えています。

⇒ポイント

- ・長時間の痛み、恐怖や恥を与える懲らしめの方法はとるべきではありません。親が怒りのままに振舞う場合、それはもはやしつけではありません。(閉じ込める、縛り付ける、言葉でなじり続ける、感情のままに叩く、などは厳禁です)
- ・夫婦の間で意見が一致しない場合は懲らしめを控えましょう。
- ・鞭を使う場合、叩く場所はおしりのみです。回数は数回にとどめるべきですが、中途半端ではなく、しっかりとした痛みを与える必要があります。
- ・親は感情的になっている時に叩いてはいけません。
- ・叩く理由をきちんと伝えます。親に逆らうのは神に逆らう罪であり、その罪を抱えたままだと、滅びの子になってしまうと教えます。

- ・叩いた後は謝らせ、抱きしめてやります。

⇒例

- ・十か月～一歳前頃

痛みと共に「だめ」という言葉を教えます。おむつを替える時に暴れる場合、「暴れちゃだめだよ」と少し強い声で言って、太腿をぴしゃりと叩きます。触ってはいけないものに手を伸ばす場合、「だめ」という言葉と共に、手をぴしゃりと叩きます。

- ・1歳～

「だめ」「おいで」を教え、「逆らったらおしりを叩くよ」と教えておきます。従わない場合、鞭を用いて罰を与えます。

- ・3歳～

場合によっては、交渉を許します。「～が終わってからでもいい？」と尋ねる余地を与えるとよいでしょう。しかし、家族のペースに合わない場合は、すぐに従わせるようにしましょう。(出かける時間が迫っている、子どもの不従順によって他にすべき事が遅れてしまう、等)

③子どもに生活のペースを握らせない

就寝時間、食事の時間、その他の生活のパターンを子どもの好きにさせてはなりません。子どもが食べたい時に食べさせ、眠りたい時に眠らせていたのでは、生活は成り立ちませんし、何よりも、家族という枠組みの中で従順に生きる訓練ができなくなってしまいます。子どもは常に従う存在であるべきです。

(ただ、子どもが発達障害や、極端な心の重荷を抱えているなら、親が子どもに合わせてあげる時が多くあるでしょう。このような場合、子ど

ものあるがママを受け入れつつ、甘やかし過ぎない、というバランスが必要になるでしょう)

④親に対する無礼な態度を許さない

以下のような態度を許してはなりません。

- ・親に命令口調を使う。
- ・親の言葉を無視する。
- ・わざと不機嫌な態度を取り続ける。
- ・親の会話に割り込む。
- ・泣き続ける事で親の同情を引こうとする。

これらの行為に対し、親は二段階のしつけをしなければなりません。まず、言葉で諭します。これらの行為は親の権威を軽んじ、親を支配しようとするものだから、やめなければならないこと、親を軽んじる人は、神を軽んじ、人を軽んじる人になってしまうことを教えます。そして、度々諭されても態度が変わらない場合、懲らしめの鞭を用います。

⑤子どもに頼らない

子どもに対して、自分の悩みを打ち明けたり、愚痴を聞いてもらったりしてはなりません。特に、夫婦関係の問題は絶対に話してはなりません。子どもは人生の防波堤ではありませんし、カウンセラーでもありません。親の慰め手となった子どもは、健全な権威を知らずに育ってしまい、大人になっても、人の権威に服しづらくなります。(このような親子関係を、カウンセリング用語で親子逆転、もしくは代理配偶者と呼びます) どんな家庭にも助けは必要ですが、それは夫婦の間で、また兄弟姉妹の間で助け合うべきであり、子どもに求めてはなりません。

⑥親の言葉より、同年代の友達の言葉を優先し始めないように注意する

同年代の友達が悪いものではありませんが、幼い子どもたちはまだ分別を知らず、神に従う事を十分に学んでいません。「知恵ある者と共に歩けば知恵を得、愚か者と交われば災いに遭う」(箴言 13 : 20) と聖書にあるように、子どもは同年代の友達から悪い影響を受けやすいものだと、親は肝に命じておく必要があります。子どもが親への従順よりも同年代の友達関係を大切にしていると感じた場合、親は何かしらの対処を必要とします。それがどのような友達か、よりも、今の親子関係はどのようなものか、の方により注目すべきです。

⑦強情を砕く

泣いたり、怒ったり、自分を痛めつけたり、様々な方法で子どもは自我を貫き通そうとします。もちろん、子どもは弱いですから、よく泣いてしまうものです。しかし、ある程度を超えると、それは強情へと変わります。親は断固としてその強情を許さず、打ち砕かなければなりません。強情に負け、子どもの願い通りにしてやるなら、親は子どもに操つられる存在に落ちてしまいます。幼い段階で強情を砕いておくと、後の子育てがぐんと楽になります。



3、基本的信頼

御言葉

エフェソ6：4

父親たち、子供を怒らせてはなりません。主がしつけ諭されるように、育てなさい。

コロサイ3：21

父親たち、子ども達をいらだたせてはならない。いじけるといけないからです。

全ての子どもは、生まれながらに親を全面的に信頼しています。しかし、子どもは自分の罪によって、また親の弱さや罪によって、その信頼を失っていく事が多くあります。親は子どもを愛し、受け入れる事によって、子どもが親に信頼を持ち続けるように養い、導く必要があります。親を信頼することは、神を信頼するリハーサルとなります。そして、ありのままを受け入れてくださり、愛してくださる神の心を体験的に学習していくのです。親が以下のような行いを繰り返している時、子どもは信頼を失っていきます。

- ・子どもを傷つけている事に気付かない。
- ・子どもの自由意志を認めない。
- ・子どもに自由を許し過ぎる（子どもを墮落から守らない）。

基本的信頼は、基本的従順と切り離して考える事はできません。信頼がない時、子どもは従順を失い、従順を失う時、信頼を失います。

ツール

①愛情あふれる触れ合い、共に過ごす喜び

子どもと多くの時間を過ごし、子どもの話に耳を傾け、共に遊びましょう。量より質ではなく、量こそが質です。

②子どもに心を開ける

子どもの喜び、怒り、悲しみに敏感になりましょう。子どもが心を閉ざしている場合、その心にあるものを聞き出してあげましょう。子どもの心が何を求めているのか、理解できるように祈りましょう。

③子どもをありのままに受け入れる（条件をつけない）

子どもは親とは違う性格であったり、理解できない趣味を持っていたりするものです。神のデザインに間違いはないと信じ、ありのままを受け入れましょう。それが困難な場合、繰り返し祈り、聖霊に心を造り変えていただきましょう。

④子どもの意志を尊重し、支配しない

子どもは親に従わなければなりません、それは親が支配してもよい、という意味ではありません。子どもには自由な意志があり、その意志によって、自分で親に、そして神に従う道を選ぶように導かなければなりません。子どもの罪は矯正されるべきですが、それは子どもが自分の罪を認めるように導く、という意味であり、子どもの心を操るということではありません。（これは基本的従順と矛盾しません）

⑤褒め、認めてやる。

子どもの人格、能力、子どもが作り上げたものを褒め、認めてあげまし

よう。「おまえの〇〇〇なところがいいね」と、具体的に褒めましょう。

⑥親が罪を認める

親が過ちを犯す時もあります。その際、へりくだって子どもに謝るなら、子どももまた謙遜を学ぶでしょう。

⑦批判的な意見を控える

もちろん、この世には悪があります。それに対して意見を持つてはいけない、というわけではないでしょう。また、子どもたちも、善と悪を見分ける力を身に着ける必要があります。しかし、社会に対して、人に対して、批判的な事ばかりを言うならば、子どもは物事を斜めに見る事に慣れていき、人を信頼しなくなります。そして何よりも攻撃的な親を信頼しづらくなっていきます。

(それは社会の悪を受け入れる、という意味ではありません。神の言葉に逆らう悪い基準に対して、それは罪であると子どもに教えるべきです。しかし、罪を犯している人を切り捨てるのではなく、不完全な社会のシステムを呪うのではなく、「神は世を愛された」と書かれている通りに、悪に染まった世の中で権威を敬い、神に従って生きることを教えましょう)

⑧自分を卑下する言葉を子どもの前と言わない

それは子どもに甘えている事になります (親子逆転の構図)。

そして、子どもは頼りない親を信頼できなくなります。



4、神への畏れ

御言葉

申命記 6 : 4 ~ 9

聞け、イスラエルよ。我らの神、主は唯一の主である。あなたは心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。今日わたしが命じるこれらの言葉を心に留め、子供たちに繰り返し教え、家に座っているときも道を歩くときも、寝ているときも起きているときも、これを語り聞かせなさい。更に、これをするしとして自分の手に結び、覚えとして額に付け、あなたの家の戸口の柱にも門にも書き記しなさい。

箴言 1 : 7

主を畏れることは知恵の初め。

ルカ 1 : 50

その憐れみは代々に限りなく、主を畏れる者に及びます。

神が生きておられる事、人は神によって造られた事、人の人生の目的は神を愛し、神に従うことである、と生活の全ての面で教え込んでいきます。

神への畏れを持つためにも、基本的従順と、基本的信頼は欠かすことはできません。従順を学び、自我が砕かれることによって、造り主の前にへりくだることを学び、親を信頼する事によって、神の無条件の愛を学ぶからです。

しかし、主は憐れみ深い方なので、どんな家庭環境に育ったとしても、子どもの心に聖霊を働かせてくださり、神に従う子どもたちを呼び出して

くださいます。しかし、聖書は親にはっきりと、主を愛する事を我が子に教えなさいと命じています。親がそれをしないならば、神に対して怠け、罪を犯すこととなります。

ツール

①御言葉を教える

一日に僅かな時間でも、共に聖書を読む時間を取りましょう。字が読めないうちは、親の後について復唱させたり、聖書物語の絵本を読んでやったりしましょう。また、御言葉を暗唱させましょう。かなり小さいうちから、子どもは文を覚える事ができます。子どもの心と思いの中に御言葉が根付くようにしましょう。

②手を置いて祈る

子どもに手を置き、主の祝福と守りが与えられ、神に従う人生を歩めるように祈りましょう。

③親が模範を示す

親が家においても、職場においても、教会においても、神を畏れ敬う生き方をしているなら、それが一番大切な教えとなるでしょう。逆に親が自分はクリスチャンであると言いながら、神を畏れず、愛に歩まず、世を愛しているなら、子どもに偽善者としての模範を示してしまうだけでなく、親を見下すという罪を犯させてしまう事となります。

④神の栄光を伝える

神が世界を造られ、支配しておられる事、神が救いの計画に基づいて、

歴史を導いておられる事、その神が人を愛してくださっている事、生活の様々な場面で、親は子どもに神の栄光を語り伝える事ができます。子どもの質問に答える形であったり、素晴らしい自然や、芸術に触れたり、ニュースを見たりと、たくさんの機会を生かして、神が栄光に満ちた方であることを伝えましょう。

⑤世の影響から子どもを守る

Iヨハネ2：15

世も世にあるものも、愛してはいけません。世を愛する人がいれば、御父への愛はその人の内にありません。

世の中の価値観は、神を愛するよりも、自分を愛する事を教えています。また、偶像礼拝、みだらな行い、貪欲が罪とされていません。教育も進化論の世界観をベースにしたものであり、創造主の存在は無視されています。世に根差した価値観が形成されないように、親は注意深く子どもの心と思いを守る必要があります。子どもに与える情報、教育、メディアを精査し、聖書に基づいた清く、健全な価値観を教えましょう。

⑥人間は罪人であること、神は罪を許してくださることを教える

子どもは罪人であると、親はしっかりと認識しなければなりません。もし、罪を悔い改めず、キリストを信じないならば、子どもは滅びの子となるのです。ですから、子どもをしつける際、罪について、悔い改めについて、そして、その罪を赦してくださる神について教えましょう。次のような時は、子どもに自分の罪深さを教えるいいチャンスです。

- ・人を罵ったり、さげすんだりする言葉を使った場合

このような言葉を戒める御言葉を暗記しておきましょう。そして、その御言葉に基づき、悪い言葉は罪から出てくるものである、と教えま

しょう。

- ・誰かに傷つけられた場合

傷ついた子どもを受け止めてやる、という最初のステップがまず必要です。次に、傷つけた相手を赦しているかを確認します。赦しておらず、恨みや、裁く心を持っているなら、それは罪であると教え、主に赦していただくように共に祈ります。

- ・被害者意識の強い言葉を言ったり、泣いたりしている場合

子どもは弱いため、人に甘えなければ生きていけません。なので、ほんのわずかでも自分が傷つけられたり、脅威を感じたりする場合、その自分を可哀想に思い、泣いたり、自分を憐れみ、人を責める言葉を言ったりします。それもまた罪のゆえです。その時、子どもは王様になっているのです。まずはその心を受け入れてやる必要がありますが、それと同時に「自分は可哀想なんだ」と主張するのをやめさせなければなりません。

⑦教会を喜ぶ

教会の交わりを喜び、兄弟姉妹と共に主の臨在を体験するように子どもを導いていきましょう。子どもの前で兄弟姉妹（特に、牧師と教会リーダー達）の悪口を言ってはなりません。教会の権威を尊ぶことを教え、積極的に子どもを礼拝の場に連れて行きましょう。礼拝の場では、親が心から神をほめたたえ、真剣に聖書の教えに耳を傾ける模範を示しましょう。子どもに偽善者だと侮られてしまわないように、神を畏れる姿勢を示しましょう。

※礼拝、集会での時間の過ごし方

幼少期は親の元で静かに過ごすようにしつけます。子どもは耳で聞いた音をそのまま再現できる優れた言語能力を持っていますので、この能力を利用して、静かに話す方法を教えます。親が「しー」という、押し殺した静かな声を使うと、子どもも次第にこの発声方法ができるようになります。字が読めるようになってきたら、自分の聖書を与え、聖書の教えに耳を傾けるように励ましていきましょう。全部を理解できなくても、御言葉が語られる時間を、畏れをもって過ごす事を体験的に教えていくのです。もちろん、何よりも大切なのは親の模範です。

5、生きる力

御言葉

箴言 4 : 5

知恵を獲得せよ、分別を獲得せよ。

箴言 18 : 9

仕事に手抜きする者は、それを破壊する者の兄弟だ。

テサロニケ I 4 : 11

落ち着いた生活をし、自分の仕事に励み、自分の手で働くように努めなさい。

多くのクリスチャンが良い人格と信仰を持っていながらも、生きる力を身に着けていない現実があります。生きる力は幼少期から訓練され、整えられなければなりません。親は世の中で生きていくために必要な技術、知識、知恵を子どもに身に着けさせていく必要があります。そのために、基本的従順、基本的信頼、神への畏れが不可欠です。従順で愛に満たされた心は、より謙遜に学ぶことができるからです。また、神を畏れる事を知るならば、勉強も運動も、神の栄光のために、神に仕えるためにするものであると理解できるでしょう。

そのためにも、親は人の子どもと自分の子どもを（また、きょうだい同士で）比較せず、その子が神によってどのようにデザインされているかを考え、ありのままを喜ぶようにしましょう。多少特異な性質であったとしても、神がその性質を用いてなさりたいことがあるのだと理解しましょう。

ツール

①責任を与える

掃除、皿洗い、洗濯、小さい子どもの世話など、家での責任を与えましょう。そして、それをいい加減にではなく、きっちりと行うように訓練しましょう。家族に仕える事ができるならば、職場でも教会でも仕える事ができます。

②能力を伸ばしてやる

学習、芸術、遊び、スポーツなどの興味がある分野を伸ばして行けるように助けてやりましょう。多少お金がかかったとしても、それは未来への投資と割り切り、子どもの成長を楽しみましょう。

③勤勉と忍耐を教える

物事を真面目にしっかりとやり遂げる勤勉さと、一度始めたことをすぐに投げ出さない忍耐を教えましょう。また、それができるように励ましましょう。壁にぶち当たっても逃げ出さない強さを訓練しましょう。

④大らかさを教える

怠けたり、いい加減に事を済ますのを戒めると同時に、時には自分のこだわりを捨てる大らかさを身に着けさせましょう。人生は変化していくものだと教えましょう。

⑤挑戦させる

失敗を恐れず、挑戦するように励ましましょう。困難から守り過ぎないようにし、挫折から立ち上がる事も体験させましょう。神に信頼すれば、不可能はないと教えましょう。

⑥自分を管理する方法を教える

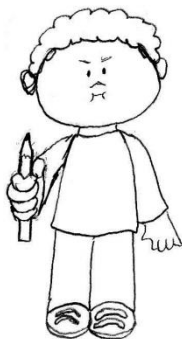
怒りや悲しみにどう対処するのか、病気を避けるために必要な事は何か、心身ともに健康であるためのコツを伝えましょう。そのためにも、親が健全な心、健全な体を維持できるように努力しましょう。

⑦他人への敬意を教える

生きていく以上、人と関わらなければなりません。常に他人に敬意を払う人は、コミュニティの中で信頼されるでしょう。親は人に対する批判的な言葉を口にしないようにすべきです。他人を尊敬し、それぞれの違いを受け入れる事を教えましょう。他人への尊敬は、親への尊敬が土台にあるならば、非常に容易になります。

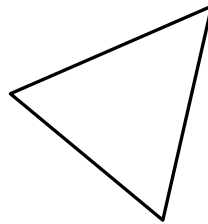
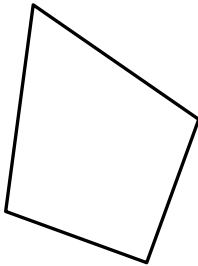
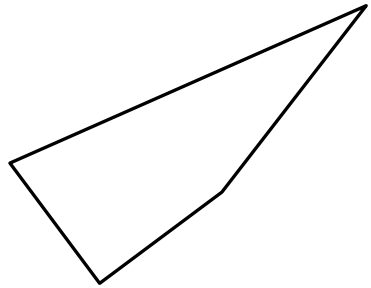
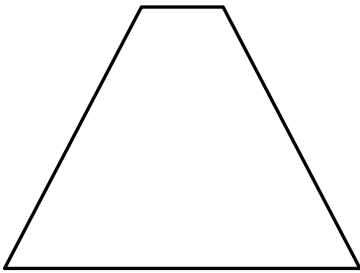
⑧物や金を与え過ぎない

甘やかしは人が努力し、困難に立ち向かう力を削いでしまいます。与えられたものに感謝し、持っているもので満足し、考え、工夫して生きる姿勢を教えましょう。

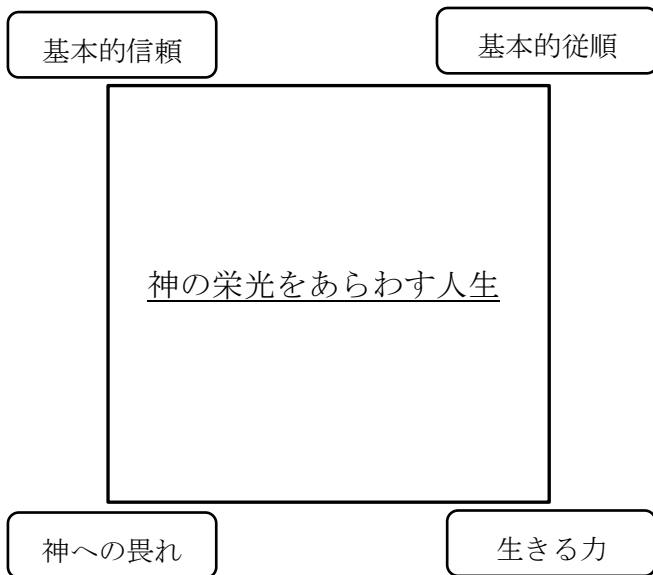


6、四角形の中に描かれるもの

この四角形は、常に正方形とは限らないでしょう。子どもの状態によって、強調される角が違ってくるでしょう。長方形になったり、台形になったりと、子育てのシーズンによって形が変化するでしょう。親の足りなさで、一つの角に集中しすぎるあまり、別の角がおろそかになる事もあるでしょう。四角形ではなく、三角形になってしまうこともあるでしょう。



大切な事は、子育ての目的を忘れない事です。きれいな正方形を作ることが目的ではありません。子育ての四角形の中心に、一つの文章を入れてみましょう。



ウェストミンスター大教理問答は、素晴らしい問いかけと答えで始まっています。

問1 人間の第一の、最高の目的は何ですか。

答1 人間の第一の、最高の目的は、神の栄光をあらわし、神を永遠に、この上なく喜ぶことです。

この答え通りの子どもを育てましょう。ただの良い子ではなく、神の栄光を表し、神に与えられた使命に生きる子どもを育てる事こそ、親が目指すべきゴールなのです。親は自分の足りなさを神に告白し、神の使命を果たす親になれるように、そして、使命を果たす子どもを育てる事ができるようへりくだって祈り、挑戦し続けるのです。

ペトロ I 2 : 9

しかし、あなたがたは、選ばれた民、王の系統を引く祭司、聖なる国民、神のものとなった民です。それは、あなたがたを暗闇の中から驚くべき光の中へと招き入れてくださった方の力ある業を、あなたがたが広く伝えるためなのです。

詩編 115 : 1

わたしたちではなく、主よ、わたしたちではなく、あなたの御名こそ、栄え輝きますように。あなたの慈しみとまことによって。

頑張りましょう。わたしたちの為ではなく、子どもたちの為でもなく、ただ神の栄光のために。子育てに苦勞する両親に祝福がありますように！

「子育ての四角形～子どもに身に着けさせたい人生の基本」

著者：清野 基

発行：下諏訪キリスト教会 2016年

：下諏訪キリスト教会：

〒393-0074 長野県諏訪郡下諏訪町緑町328

TEL&FAX 0266-27-3862

shimosuwa_church@ybb.ne.jp

<http://shimosuwachurch.net/>